

1 スポーツの聖地づくりの推進体制

多くの部局が関与する複合的な領域である
スポーツ行政を部局横断で総合的に推進

○スポーツの聖地づくり総合推進プロジェクトチーム

○計画概要(H30.3改定)

名称	第2期静岡県スポーツ推進計画
位置付け	・国のスポーツ基本計画を参酌し地方の実情に即して策定 ・静岡県新ビジョンの分野別計画
基本理念	「スポーツの聖地づくり」 スポーツをやりたいと思った時に、いつでも、どこでもスポーツができる環境が整っていること（ソフト、ハード共に）

設立趣旨 (H30.10)	基本理念「スポーツの聖地づくり」を実現するため、目標に向けたイメージ共有と、施策推進に必要な調整を行う
構成員	プロジェクトリーダー：出野副知事・土屋特別補佐官 タスクフォース(TF)リーダー：スポーツ担当部長 構成員：関係局長
R3年度 開催実績	PT会議(5月)：アクションプラン進捗状況等 県庁内スポーツ関連の取組共有

2 スポーツ推進計画指標の状況

- 「成人の週1回以上のスポーツ実施率」、「成人女性の週1回のスポーツ実施率」は、目標値65%に向け、進捗が遅れが見られる。
- 「県立水泳場等の利用者数」、「スポーツ・レクリエーション交流人口」は、コロナ禍により県内スポーツ大会が中止したこと等から減少したものの、「静岡県障害者スポーツ大会への参加者数」は、パラリンピックによる機運の向上もありコロナ禍においても増加した。
- 「国民体育大会における総合順位」は、開催中止となっているが、本県ゆかりの選手が「オリ9個のメダル」「パラ6個の金メダル」を獲得。

TF	課題分野	目標値	2020年度 (R2)	2021年度 (R3)	2021年度 目標値	前年度比較 評価
I	参画人口の 拡大	成人の週1回以上のスポーツ実施率	57.7%	57.2%	65.0%	↓
		新体カテストの記録が全種目において 全国平均を上回る割合	65.7%	49.5%	100%	↓
	多様性のある 社会の実現	静岡県障害者スポーツ大会への参加 者数	454人	641人	3,500人	↑
		成人女性の週1回のスポーツ実施率	51.5%	算定中	65.0%	-
II	「人材」と 「場」の 充実	県立水泳場及び富士水泳場の利用 者数	R元 283千人	R2 207千人	310千人	↓
		県立武道館の利用者数	R元 249千人	R2 71千人	310千人	↓
III	地域の 活性化	スポーツ・レクリエーション交流人口	2,588万人	1,669万人	3,500万人	↓
		東京2020オリンピック・パラリンピック大会 運営ボランティア登録者数	874人	874人	2020年度 700人※	-
IV	競技力の 向上	国民体育大会における総合成績	延期	中止	8位以内	-
		東京2020オリパラ出場 の本県関係者数	(R2)五輪36人 パラ15人	(R3)五輪36人 パラ15人	五輪50人、 パラ35人	-

※は、本県で募集する「都市ボランティア」の人数

3 各タスクフォースの主な取組（令和3年度）

TF1 参画人口の拡大

- 小学生の体力向上に向けた実技指導者派遣
- 中・高・特支の部活動へ外部指導員派遣
- 「ふじのくに健康づくり推進事業所」の拡大
- 県民スポーツ・レクリエーション祭、しずおかスポーツフェスティバルの開催
- すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会実施等
- 県障害者スポーツ大会「わかふじ大会」の開催



わかふじ大会アーチェリー

TF2 人材と場の充実

- 人材バンクの活用による学校スポーツ支援
- 運動部活動を補完する地域部活動の実践研究
- トップアスリート等を中学校部活動等へ派遣
- スポーツ施設、各学校の施設、県営都市公園
- 指定管理者によるスポーツ施設での教室等充実
- エコパでのラグビー環境の整備
- 伊豆MTBコース上級～初級コース整備支援 等



トップアスリート派遣

TF3 地域活性化

- 東京2020オリンピックの有観客開催
- 伊豆東部地域20市町住民参画の機運醸成
- 合宿誘致の推進を通じた静岡ブランドセールス
- RWC2019のレガシー継承
(ラグビー大会・合宿誘致)
- オリパラレガシーの推進（トレーニングヴィレッジ
構想、国際大会の誘致など）等



東京2020オリ自転車競技
(梶原悠未選手)

TF4 競技力の向上

- 競技力の基盤となるジュニアアスリートの発掘、
育成、強化支援
- ICTの活用等による強化活動支援
- トップアスリート等を正規雇用し、アスリート
活動を支援する県内企業への支援
- 世界クラスの指導者の招聘による指導者の
資質向上及び体制強化 等



ICTを活用した競技力向上